

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 11月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0194600094
法人名	社会福祉法人 尊誠会
事業所名	帯広けいせい苑 グループホームはるか
所在地	〒080-0028 帯広市西18条南2丁目6番4号 (電話) 0155-35-3033

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年11月16日

【情報提供票より】 (21年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 17人 、非常勤 7人	常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	木・鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ銅板葺造り
	地下1付2階建ての1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000円		
その他の経費（月額）			
敷金	有（円） 無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食350円
	夕食	400円	おやつ円
	または1日当たり円		

(4) 利用者の概要 (10月 9日 現在)

利用者人数		17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護 1		2 名	要介護 2		3 名	
要介護 3		4 名	要介護 4		5 名	
要介護 5		3 名	要支援 2		0 名	
年齢	平均	84 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大江病院、北斗病院、高木皮膚科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体組織は社会福祉法人であり、当事業所は同母体組織が運営する小規模多機能型居宅支援事業所と併設している。前年の外部評価結果を受け、全職員が改善に向けた取り組みを行い、課題であった事業所独自の理念づくりをあげ、地域に根ざした事業を展開し、事業所の交流スペースを町内会の会議などに自由に使ってもらうなど、地域住民と一体化し、住民に受け入れられている。近くには商店街、公園、保育園、中学校もあり、園児も事業所を訪ね、利用者を楽しませている。利用者は併設している小規模多機能型居宅介護事業所との往来もでき、表情も明るくその人らしい暮らしを行っている。また、スプリンクラー消火設備を設置し、利用者が安心して暮らせるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 課題であった事業所独自の理念をつくりあげ、地域と事業所の一体化を強化している。家族への報告は、面会時には近況報告、相談事など気軽に訪問できる雰囲気です支援し3カ月に一度の「はるかだより」を発行している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が評価表を持ち帰り、各自が書き込める範囲内で取り組み、会議で集約して話し合い意見の統一を図り作成している。昨年にも増し今年の評価は充実したものになっているとの声もでている。日々評価項目を再認識しサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2カ月に1回行い、参加メンバーは町内会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員、管理者および小規模多機能ホーム職員で構成され、事業所からは行事案内、利用者の生活ぶり、評価結果など報告し、避難訓練参加の呼びかけや環境面(除雪)でのアドバイスを得るなど、情報交換の場となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問が多く、常に気軽に話し易い雰囲気をつくりあげている。訪問時には利用者を交えて日ごろの生活ぶり、心配事などの相談にのり、苦情相談窓口は玄関の見やすいところに掲げてあり、他にも市や道にも窓口があることを重要事項説明で知らせてある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は旧住宅街に立地し、設立当初から町内会に入会して事業所の意義について説明し理解を得ている。運営委員会や事業所の行事である敬老会、感謝祭、避難訓練、事業所内の交流スペースを町内会の会議で使うなど、最近では、地域住民の困りごとの相談を受けるなど交流が密になっている。

社団法人 北海道シルバーサービス振興会

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念に加え、「家庭的な環境と地域住民との交流と、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられること」を掲げ、全職員で共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念を念頭に置き、職員会議でくり返し確認し合い、具体的なケアについて意見の統一を図り日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から町内会に加入しており事業所の意義について説明し理解を得ている。事業所の交流スペースを町内会が会議で利用したり、事業所の行事（避難訓練、運動会、感謝祭、敬老会）にも多くの住民が参加し、交流を密にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しており全職員で外部評価を参考に自己評価に取り組んでいる。評価の結果は課題として取り組み、日々のサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、参加メンバーは、町内会会長、民生委員、老人クラブ会長、家族代表、地域包括支援センター職員、事業所職員で構成している。会議には、事業計画、利用者の生活状況、環境面(除雪など)を報告し、意見、助言を得て改善している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の研修に市職員を受け入れたり、権利擁護についての相談や指導を受けるなど交流を図り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組むような関係作りが成されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は月に1度は事業所に訪問して、気軽に話し合っている。利用者の健康状況、金銭出納帳、日ごろの状況などを報告している。3ヶ月に1回事業所だよりを発行し家族との連携を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に気軽に話しかけられる雰囲気づくりに心掛けており、苦情や相談など迅速に対応している。事業所内に苦情相談窓口を置いたり、事業所以外(市、道)にも苦情相談窓口があることを重要事項説明書で知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立2年目で職員の移動は少なく、全ユニットや小規模多機能ホームと行き来が頻繁に行われ、利用者は職員と馴染みの関係ができています。職員の異動があった時にもダメージに繋がることなく、極力利用者に不安を与えないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に勤務調整をして段階的に参加できるように配慮し、研修結果は事業所に持ち帰り職員全員で内容を共有し、活かせるものは即時実践してスキルアップに繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総括管理者はグループホーム協議会の役員でもあり、同業者とのネットワークを通じて情報を得ている。事業所の行事には他グループホームにも声をかけ利用者、職員の交流を密にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が事業所を下見して居室や事業所全体を見学し、要望など出来る限り聴き取り、その後、職員や計画作成担当者が訪問し、ゆっくり馴染みの関係を築き、利用に至るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の関わりの中で調理、味付け、餅づくり、昔の話など人生の先輩として教わるが多く、日々共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦を踏まえ、日々の関わりの会話のなかで好きな食べ物や思いなど出来るだけ聴きだし、思いや意向に沿うような支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を置き、日々の関わりの中からの気づきや、利用者、家族、医療関係者などからの意見を参考に、職員会議でモニタリングやカンファレンスをして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に年1回の見直しを行っている。利用者の日ごとの状況や体調などの変化があれば直ちに職員会議で話し合い、現状に即した介護計画に変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎や、ドライブ、買い物など支援している。併設された小規模多機能型居宅介護事業所の利点を活かし家族が泊まる時は事業所、小規模多機能ホームいずれも利用出来るなど地域住民の困りごとの相談など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医の受診を引き続き支援している。職員や家族が通院時の診断結果を全て事業所に報告し、介護計画の見直しに取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際、利用者、家族、医師を交えた話し合いが密になされ、医療連携体制も整っており、全員で方針を共有し努めている。	○	終末期の体制については、利用者、家族、医療関係者と早い段階から話し合い、情報の共有を図りターミナルケアのマニュアルを作成するよう期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣い、声かけなど尊厳を損ねることのないよう気をつけている。言葉遣いなどで気になるような時には会議やミーティングで話し合い日々のケアに繋げている。着替えなどはから外側から見えない籠製の物にし、記録は事務所内で取り扱うなどプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、体調や思いを汲み取りドライブ、買い物、事業所でゆったり過ごしたり、利用者の意向に沿うよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりから好きなものを聴いて買い物に行き、近所から頂いたものを職員と一緒に調理し、食事の準備、後片付けなど、出来ることを最大限に引き出し役割を担って食事を楽しいものに行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの入浴日は決めているが、体調変化に合わせ無理強いせず、入りたい時は、毎日利用できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設する小規模多機能型居宅介護事業所に遊びに行ったり、事業所の運動会、敬老会、感謝祭、菜園、餅つきなど、利用者の得意なことを取り入れ張り合いのある生活が出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調にあわせドライブや菊祭りを見学したり、花見、動物園、買い物、散歩など利用者の希望を優先し支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないことを常とし、全職員が鍵をかけることの弊害を十分に理解をし、日中鍵をかけないケアに努めている。また、防犯上夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を消防署の指導を受けながら実施し、避難訓練にはチラシを作り、町内会の回覧版で協力を呼びかけ参加している。災害時には地域住民の協力が得られるよう運営推進会議で繰り返し働きかけている。スプリンクラー、エレベーター、非常通報装置も取り付けられている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保は1日を通して1000cc以上と記録を残し、一人ひとりの状況に合わせてトロミやキザミ食など取り入れ、栄養バランス(法人の管理栄養士作成のレシピ)を考慮した食事の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下、明るく居心地が良い居間にはソファがゆったり置かれ、テレビを見たり、歌を楽しんでいる。キッチンには程よい広さで料理する音、匂いなど感じる事が出来、家庭的な雰囲気と温もりが感じられるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真、仏壇、使い慣れた馴染みのものを持ち込み、安心して、不安なく落ち着いて過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。